

(10) 九州



九州地域では、景気は東日本大震災の影響により、弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は東日本大震災の影響により、減少している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

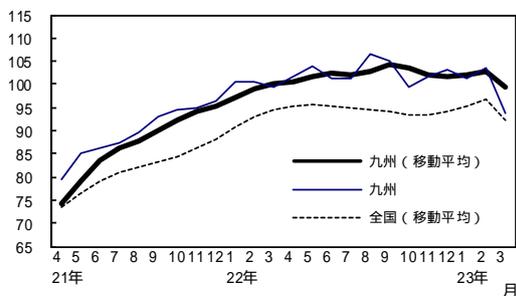
	前回(平成23年2月)	今回(平成23年5月)	
景況判断	持ち直しの動き	東日本大震災の影響により、弱含み	
鉱工業生産	緩やかに持ち直し	東日本大震災の影響により、減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は東日本大震災の影響により、減少している。

電子部品・デバイスは、製品単価の価格下落圧力から、ロジック、マイコン等モス型計数回路を中心に、減少した。輸送機械は、新型車の投入効果から幾分改善がみられたものの、東日本大震災の発生に伴う部材の調達難から大幅に減少した。食料品・たばこは、寒冷な気候が緩んだことから、清涼飲料などを中心に増加した。一般機械は、堅調なアジア向け需要を背景に水管ボイラ、半導体製造装置などを中心に生産の拡大が続いているものの、10-12月期の反動から減少に転じた。化学は、アジア向け外需を背景とした樹脂素材の堅調な生産に加え、季節性医薬品など医薬品の増産から堅調に推移しているものの、10-12月期の反動から減少に転じた。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電子部品・デバイス	15.6	7.6	8.3	7.8	6.3
輸送機械	15.4	6.8	4.8	4.0	24.6
食料品・たばこ	10.6	9.7	3.4	2.3	9.7
一般機械	10.6	10.4	6.1	4.9	18.5
化学	8.2	4.5	4.3	3.2	1.2
鉱工業	100.0	2.6	2.0	1.7	0.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

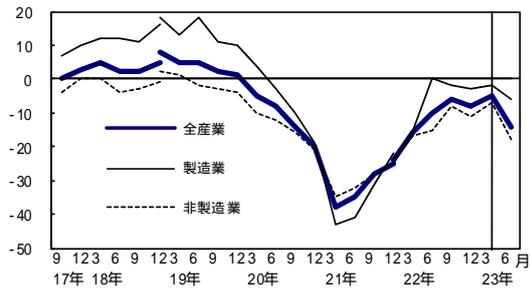
2. 1~3月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の大線は後方3か月移動平均。

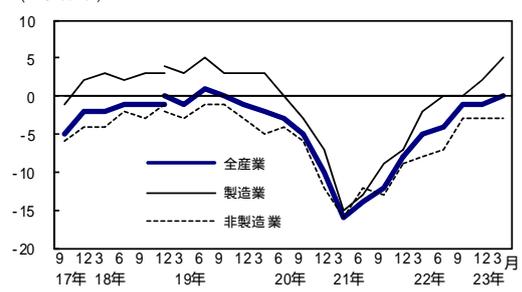
(2) 企業動向の業況判断、資金繰り判断
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



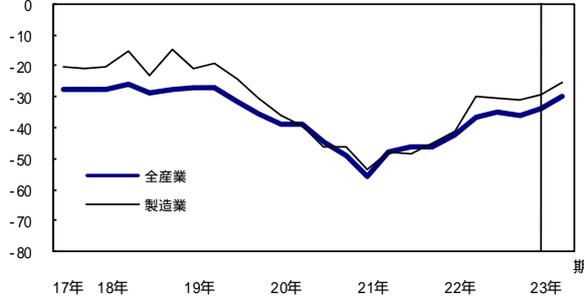
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]
「受注率にあまり変化はないが、ハザードマップに関する問い合わせが多くなった(出版・印刷・同関連産業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資

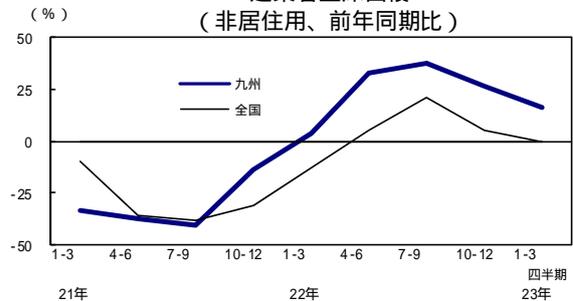
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績見込み	23年度計画
全産業	17.6(1.0)	8.1
製造業	20.2(4.5)	1.0
非製造業	16.5(0.8)	12.6

(備考) 1.()は前回(12月)調査比修正率。

2. リース会計対応ベース。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

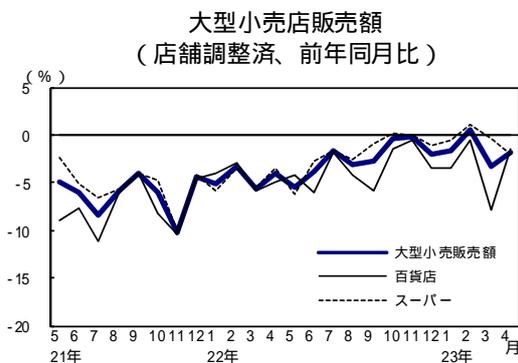
大型小売店販売額

百貨店は、1月は、記録的な厳しい寒さが客足に影響したことから、衣料品・飲食料品・その他全てが低調で、前年比減少幅はおおむね横ばいとなった。2月は、気温の上昇に伴い春物衣料品など衣料品が好調に推移したことから、前年比減少幅は縮小した。3月は、東日本大震災の影響から来客数・売上ともに減少したのに加え、競合店開店の影響から前年比減少幅は拡大した。なお、日本百貨店協会によると、福岡地区の4月の売上高は、前年同月比で5.3%減、福岡を除く九州・沖縄地区の4月の売上高は、前年同月比で0.5%減となっている。

スーパーは、風邪薬や花粉症対策関連商品等医薬品などの好調な推移に加え、東日本大震災以降、飲料水や缶詰等保存食が大幅に伸長したことから、前年同期比減少幅は縮小した。

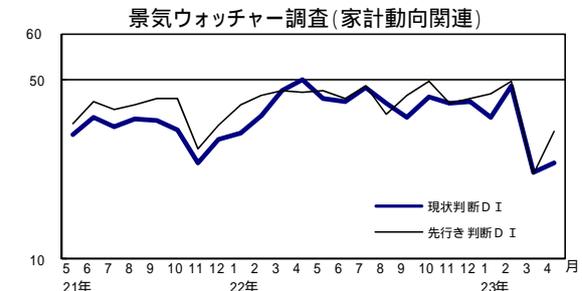
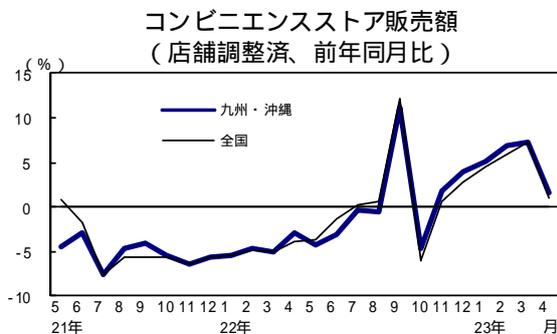
景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「東日本大震災以降花見や行楽等を自粛するムードが高まり、関連商材の売行きが悪い。工場の被災に加えて需要が高い簡便商品や水等は入荷が薄く、品ぞろえに影響している(スーパー)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	22年4-6月	7-9月	10-12月	23年1-3月
大型小売店	4.5	2.5	1.0	1.6
百貨店	5.0	3.8	2.0	4.1
スーパー	4.2	1.7	0.4	0.0
乗用車	23.9	16.7	26.7	24.8
景気ウォッチャー	46.8	44.8	45.3	39.9

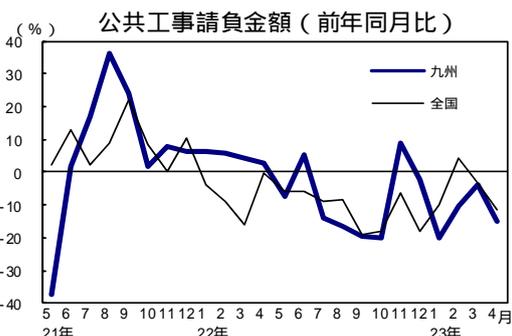
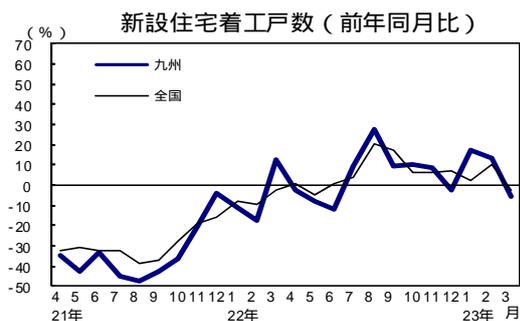
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済、九州・沖縄地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

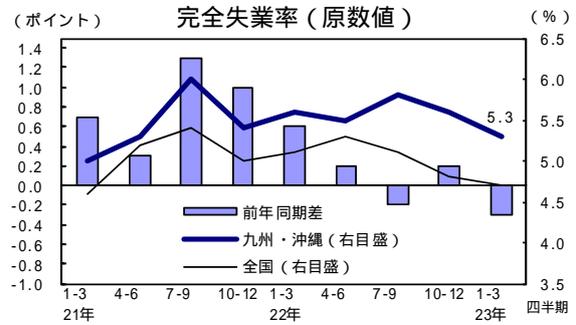
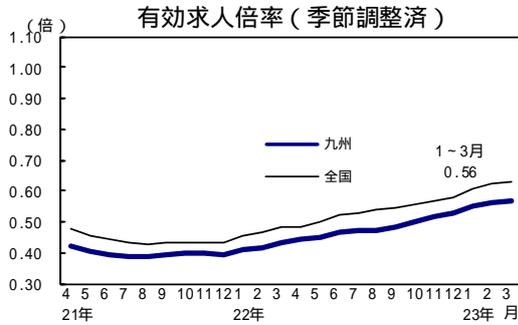


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。3月の新規求人数は増加している。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

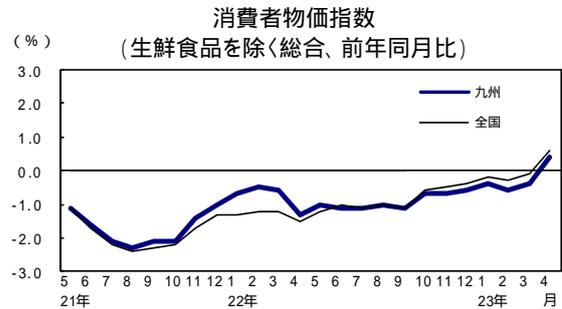
「前年比でみて、新規求職者数は2か月連続の増加だが、新規求人数は4か月連続の減少である。微減ではあるが、増加傾向にあった新規求人数が停滞している(職業安定所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年4-6月	7-9月	10-12月	23年1-3月	23年4月
倒産件数	182	222	189	186	53
(前年比)	35.7	8.3	24.1	13.5	13.1
負債総額	259	445	481	394	126
(前年比)	74.8	6.4	1.0	7.1	25.5



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・3月の東日本大震災等もあって、自粛ムードが広がっており、特に3月から4月にかけての客の動きは非常に悪く、購買意欲が落ちている(商店街)

<先行き>

・東日本大震災の影響で現在工事中の材料が入荷困難になってきている。そのため、工期が延び資金繰りにも影響が懸念され景気は悪化する(建設業)

